

歴博くらしの植物苑だより

くらしの植物苑観察会

第105回 12月15日(土) 13:30～ くらしの植物苑東屋

「サザンカの世界」箱田直紀 東京農工大学名誉教授

第106回 1月26日(土) 13:30～ くらしの植物苑東屋

「炭と植物」吉村郊子 本館研究部歴史研究系

今週のみどころ <http://www.rekihaku.ac.jp>



季節の伝統植物

冬の華・サザンカ 12月4日から1月27日

12月4日からくらしの植物苑、ハウス・東屋周辺では、冬の華・サザンカの展示を行います。冬の時期の庭を彩る花としてツバキとともにサザンカも植栽されてきました。サザンカと人との関わりを展示いたします。

4日の13:30からの内覧会(参加自由)では、サザンカがご専門の箱田直紀先生の展示解説があります。ふるってご参会ください。



季節の伝統植物

肥後菊などまだご覧いただけます



ナバナ (アブラナ科アブラナ属)

明治時代には「唐菜」といわれた切花用でした。原種はハクサイといわれています。主茎を切り取り、その下に発生する側茎を次々に収穫することができます。花や新葉をお浸しにして食べます。



ナギ (マキ科ナギ属)

雌雄異株の高木で、古くから熊野信仰と結びつき霊木として、植栽されています。奈良の春日大社に純林があります。葉は楕円状披針形で平行脈が20本以上もあり、引っ張っても切れません。花は5月頃に咲き、種子は1cmくらいの球形です、苑内には手前側に雌株、奥に雄株があります。



ヒサカキ (ツバキ科ヒサカキ属)

暖地の森林に普通に生える、雌雄異株の常緑低木。枝葉はサカキと同じように神前やお墓に供します。果実は染料にも用いられます。



クチナシ (アカネ科クチナシ属)

暖地に生える常緑低木。花は美しく香りもあり、お茶や香水に使われます。果実は楕円体で稜が6あり、6つのがく裂片に続きます。無害なのでお正月のキントンの色付けに使われます。黄色の染料とされ、クチナシ染めとなります。

クチナシの果実がちぎられた様に落ちています。カラスがついばんだ後です。オオヤエクチナシの果実と比べてみてください。



コクサギ (ミカン科コクサギ属)

山野の木の下に生える雌雄異株の落葉低木。葉のつき方は、葉は単葉で、一側に2枚ずつでる(コクサギ型葉序)で、4月頃に花をつけます。果実は3から4個の分果に分かれ、熟すと上部が裂開して種子を勢いよく飛ばします。

